

5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

5-2-1 私情協 教育イノベーション大会

<事業計画>

大学におけるデジタル変革(DX)が今後一層進展していくことを踏まえて、教育改革に向けたDX、学生支援改革に向けたDX、業務改革に向けたDXの観点から、先行して取組んでいる好事例の紹介及び意見交流を行う。例えば、学修者本位の教育の推進、イノベティブな人材育成を目指すPBL等を含む分野横断型教育の推進、対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育(反転授業など)の推進、仮想空間(メタバース)を活用した学びの質向上、デジタル人材育成の推進、グローバル人材の育成を目指した外国大学とのオンライン連携授業の国際通用性などについて、情報提供又はシンポジウムなどを行う。また、ICT利活用による授業改善の研究や学修成果の可視化など実践事例の発表、大学・賛助会員連携によるICT導入・活用事例の紹介を通じて理解の促進・共有を図る。

<事業の実施結果>

「教育イノベーション大会運営委員会」を継続設置し、「私情協 教育イノベーション大会」を実施した。以下に、委員会及び教育イノベーション大会の活動を報告する。

教育イノベーション大会運営委員会

2023年(令和5年)7月28日、2024年(令和6年)3月11日に平均13名が出席し、2回開催して「私情協 教育イノベーション大会」の企画・実施準備と振り返りを行った。

(1) 開催要項の策定

- ① 大会のテーマは、「AI時代の教育と人材育成を考える」とした。開催の趣旨は、デジタル革命の真ただ中であって、持続可能な社会を創り出す担い手としての教育のあり方、個人の幸せと社会の豊かさを実現するための教育のあり方の観点から、大学としてどのように向き合うことが期待されるのか考察することにした。具体的には、国の教育政策を共有する中で、変革の世紀を生き抜く教育課題の論点、生成系AIへの対応、デジタル教材の著作権対応と生成系AIの対応、教育・学修支援DXと業務支援DX、学びの質向上を目指すICT活用、データサイエンス・AI授業のワークショップなど喫緊のテーマを取り上げ探求するとともに、ICT利活用による授業改善の研究発表などを通じて理解の促進を図る機会とした。
- ② 第1日は、「全体会」として、「我が国の教育をめぐる現状・課題・展望」、「変革の世紀を生き抜く教育を考える」、「国等が取り組むデジタル人材の育成・確保」、「大学教育への変革を迫る生成系AIの取り扱い」、「メタバース(仮想空間)による教育を考える」について理解を共有することにした。
- ③ 第2日は、「テーマ別意見交流」として、「生成系AIに対する大学対応(研修等含む)の紹介」、「企業における生成系AI活用の対応(社員教育含む)紹介」、「生成系AI授業活用事例の紹介」、「働き方改革、業務支援DX」、「学修者本位の教育、学びの質向上を目指すDXの試み」、「デジタル教材の著作権対応とChatGPTの対応」、「学びの質向上を目指すICT活用の取組み」、「文系学生向けデータサイエンス・AI授業のワークショップ」、「メタバースによる大学授業活用事例の紹介」の9分科会を設けて意見交換することにした。
- ④ 第3日は、教育改善に向けたICT活用の発表及び意見交流の機会を提供するため、参加者を募集して実施することにした。また、大学と企業連携によるICT環境導入事例は事前に紹介ビデオを作成したものを休憩時間に配信することにした。なお、開催要項は、次ページを参照されたい。

9月5日(火)：全体会

9:50	開会挨拶 公益社団法人 私立大学情報教育協会会長 向殿 政男氏
10:00	【我が国の教育をめぐる現状・課題・展望】 新たな教育振興基本計画のコンセプトと高等教育の政策 将来の予測が困難な時代において教育政策の進むべき方向性を示す「羅針盤」となるべき総合計画として、開議決定された令和5年度から9年度における第4期教育振興基本計画について、社会の現状や変化への対応と今後の展望などから、高等教育機関として教育政策を審美に推進する目標と基本政策を紹介いただきます。 廣田 寛氏 (文部科学省総合政策局政策課企画官)
10:40	休憩
10:50	【変革の世紀を生き抜く教育を考える】 「教育の未来を築くイノベーションの学びとは」 デジタル革命の先にある教育を十全に実現していくには、従来からの教育の理念と方法を超えるイノベーションやデジタル技術の効果と限界を理解し、効果的に使うことが重要です。その上で、広くイノベーションを担う人材の育成が不可欠ですが、そのための根本はありまじせん。教育関係者自らから未来を託す学生の幸せに力強い努力し、教育のDXによる学びのオープン化、イノベーション・イノベーションの育成、イノベーションの達成など、何をどのように学ばせようのか、その学びをどのように支援すればよいのか、論点を整理いただきます。 安西 祐一郎氏 (東京財団政策研究所長、日本学術振興会顧問、本協会副会長)
11:30	【国等が取り組むデジタル人材の育成・確保】 数理・データサイエンス(DS)・AI教育の推進・普及と生成AIの取り扱い 令和5年度の申請状況を踏まえた数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の概要、コンソーシアム活動によるリテラシーレベル、応用基礎レベルのモデルカリキュラムや教材等の普及およびによる全国展開の推進、政府提言等の政策動向、大学・高専における生成AIの授業面の取扱いなどについて紹介いただきます。 奥井 雅博氏 (文部科学省高等教育局専門教育課長補佐)
12:10	休憩 (大学・企業連携によるICT導入・活用事例の紹介)
13:00	【シンポジウム】 大学教育への変革を迫る生成系AIの取り扱い 対話型ChatGPTに代表される生成系AIの出現に、大学教員はどのように向き合うことが適切と考えればよいのか、学生に活用させる上で留意すべきこと、使いこなすための訓練の必要性などを通じて、知識偏重型教育から考えるプロフェッショナル教育への転換を多面的に議論していただきます。 竹村 乾通氏 (滋賀大学学長) 須藤 修氏 (中央大学ELSIセンター所長、国際情報学部教授) 安西祐一郎氏 (東京財団政策研究所長、日本学術振興会顧問、本協会副会長) 森本 康彦氏 (東京学芸大学ICT/情報基盤センター、情報教育教室教授) 金丸 敏幸氏 (京都大学国際高等教育院国際学術国際学術言語教育センター准教授) 高橋 英弘氏 (京都産業大学法学部教授) 司会：辻智氏 (私情協情報教育研究委員会データサイエンス教育分科会アドバイザー、大阪公立大学研究推進機構特任教授)
15:00	休憩
15:20	【メタバース(仮想空間)による教育を考える】 新しい世界を知る機会 自分に代わりバーチャル化身としてのアバターを使うことで、偏見や先入観を排除して様々な人と広く交流し、性別・国籍・年齢・立場を超えて新しい人間関係を作り直す、新しい文化や社会を知る機会になる。実験や自習など体験をともなう学びの機会を充実など、学内外の学生、中高生や社会人向けに大学の講義をもとにしたオンライン講座などを提供している東京大学「メタバース工学部」などの取組みを紹介いただきます。 雨宮 智浩氏 (東京大学バーチャリアリアリティ教育研究センター教授)
16:00	終了

9月6日(水)：テーマ別意見交流

オンライン会場1	オンライン会場2
<p>【分科会：A】9:00~10:50 生成系AIに対する大学対応(研修等含む)の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 東北大学 三石 大氏(東北大学データ駆動科学・AI教育研究センター准教授) ※ 近畿大学 井口 隆和氏(近畿大学総合情報基盤センター長) ※ 上智大学 池田 真氏(上智大学学事センター長) ※ 京都ノートルダム女子大学 神月 紀輔氏(京都ノートルダム女子大学ND教育センター長) ※ 順天堂大学 川村 浩之氏(順天堂大学医学部一般教育准教授) <p>休憩 10:50~11:00</p> <p>【分科会：C】11:00~12:00 生成系AI授業活用事例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ ChatGPTで英語教育の在り方を探究 山中 司氏(立命館大学生命科学部教授) ※ 模擬授業を考えるグループワークにChatGPT使用 高尾 俊介氏(甲南女子大学文学部准教授) ※ 山下 香氏(甲南女子大学文学部准教授) 	<p>【分科会：B】9:00~10:30 企業における生成系AI活用の対応(社員教育含む)紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 生成AIを踏まえたデジタル人材育成施策の改訂について 島田 雄介氏(経済産業省商務情報政策局情報技術利用促進課調査官) ※ 社員が様々な業務に活用 向野 孔己氏(パナソニック株式会社IT・デジタル推進本部戦略企画総括部戦略企画部シニアマネージャー) ※ 化学素材の新規用途の探索に活用 向田 志保氏(三井化学株式会社DX推進本部DX企画管理部データサイエンスチームリーダー) ※ やってTRVプロジェクとの紹介 服部 怜奈氏(アサヒグローバルジャパン株式会社 Data & Innovation 室) <p>休憩 10:30~10:40</p> <p>【分科会：D】10:40~12:00 働き方改革、業務支援DX</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 職員の働き方改革宣言 (ヒデオ講演) 千野 雅裕氏(上智大学人事局人事グループ主幹) ※ 国際交流業務のDX取組と展望・課題 中村 文武氏(桜美林大学国際交流センター課長) ※ デジタル技術活用プロジェクトと業務自動化(RPA)の事例紹介 石田 直久氏(滋慶医科大学情報課主幹)
<p>休憩 12:00~13:00 (大学・企業連携によるICT導入・活用事例の紹介)</p> <p>【分科会：E】13:00~14:20 学習者本位の教育、学びの質向上を目指すDXの試み</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 一人ひとりの個性を伸ばす目標・学修支援DXの取組み 田代 雄三氏(日本経済大学薬務推進部長、准教授) ※ 学修課程、成果の可視化を目指すDXの取組み 西村 礼子氏(東京医療保健大学学長職務部長准教授) ※ DXによる時間・場所の制約を超えた学びの場創出の取組み 鈴木 亮一氏(金沢工業大学学長補佐、工学部教授) ※ DXによるバーチャルクラスデジタルラーニングの取組み 西村 浩二氏 (広島大学情報メディア教育研究センター長) <p>休憩 14:10~14:20</p> <p>【分科会：G】14:20~15:15 学びの質向上を目指すICT活用の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ オンラインインタビュー市民議論 高橋 英弘氏 (京都産業大学法学部教授) ※ ICTで「空き家活用」の可能性を探究する地域連携教育 高橋 大輔氏(共立女子大学建築・デザイン学部教授) ※ ICTを用いた Team-Based Learningの実施方法 茂泉(吉名) 佐知子氏(東京女子医科大学医学部講師) <p>【分科会：I】15:20~16:00 メタバースによる大学授業活用事例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ メタバース・ラボでの課題解決型 PBLの試み 小田 まり子氏(久留米工業大学AI応用研究所副所長) ※ メタバースによる国際協働学修の実践報告 林 雅子氏(東北大学高度教育・学生支援推進教授) 	<p>【分科会：F】13:00~14:10 デジタル教材の著作権対応とChatGPTの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 著作権制度における権利処理の注意とChatGPTの対応 補償金制度の導入により、教員が授業で他者の著作物を利用することが理解されつつある。他方、同一性保持権や目的外利用など著作権法で許容されていない他者の著作物の利用に対する注意事項について、理解の促進をはかります。なお、著作権者個人への補償金の分配については、著作物利用情報の一元化など本協会が課題としている点を整理し、認識の共有を図ります。 また、ChatGPTの取り扱いとして、著作権侵害にどのように注意したらよいか、などについて考察します。 中村 善宏氏 (神奈川大学学長補佐、法学部教授) 高橋 英弘氏 (京都産業大学法学部教授) <p>休憩 14:10~14:20</p> <p>【分科会：H】14:20~16:00 文系学生向けデータサイエンス・AI授業のワーキングショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 多学部連携したデータサイエンス授業の実践例と生成系AIとの向き合い方 理系・文系の各学部から参加してデータサイエンス授業の工夫と、テキストや画像に関する生成系AIとの向き合い方について紹介します。 辻 智氏(大阪公立大学研究推進機構特任教授、本協会情報教育研究委員会データサイエンス教育分科会アドバイザー)

(2) 実施結果

9月5日から7日の3日間、オンラインによるテレビ会議(東京市ヶ谷の私学会館から配信)により、69大学・1短期大学、3賛助会員、視聴者数は、初日に207名、翌日に300名、最終日に232名の参加があった。以下に、全体会、テーマ別意見交流で確認された主な点とアンケートによる実施結果を報告する。

1. 初日の全体会

4件の講演と1件のシンポジウムを行った。最初は、我が国の教育をめぐる現状・課題・展望の講演として、文部科学省から「新たな教育振興基本計画のコンセプトと高等教育の政策」を紹介いただき、続いて、変革の世紀と生き抜く教育を考えると、安西副会長から、「教育の未来を築くイノベーションの学びとは」の講演が行われた。

また、文部科学省から、国等が取り組むデジタル人材の育成・確保として、「数理・データサイエンス・AI教育の推進・普及と、生成AIの取り扱い」について説明があった。

昼食後、6名の先生方による「大学教育への変革を迫る生成系AIの取り扱い」をテーマにシンポジウムを行い、初日の最後に、メタバースによる教育を考えると、東京大学から「新しい世界を知る機会に」と題して講演が行われた。

特に、生成系AIの取扱いのシンポジウムでは、生成系AIは知識を並べるのは得意だが、知識を創る、知識を活用する、知識を使って相互理解するという学びは苦手なので、思考・推論の仕方を学ぶことが大事になる。しかし、間違い、著作権侵害などのリスクもあるので、そういうことを体験する中で、ヒントを与えてくれるところを使って、主体的に学びを進めていく教育がより一層可能になるのではないかとということが共有された。

2. 2日目のテーマ別の意見交流

分科会Aの「生成系AIに対する大学の対応」では、5大学から教員に対する研修や学生への取扱い周知が紹介され、意見交流した。

分科会Bの「企業における生成系AI活用の対応(社員教育を含む)紹介」では、経産省で生成系AIを導入した企業での人材育成モデルの改定と企業の導入事例が紹介され、意見交流した。

分科会Cの「生成系AI授業活用事例の紹介」では、2大学から英語教育とグループワークの活用事例が紹介され、意見交流した。

分科会Dの「働き方改革、業務支援DX」では、2大学から職員の働き方改革宣言、国際交流業務のDX、業務自動化(RPA)が紹介され、意見交流した。

分科会Eの「学修者本位の教育、学びの質向上を目指すDXの試み」では4大学から、スマホによる学修支援アプリの開発、医療系DXの取組み、実空間と仮想空間を活用した実験・演習の取組み、バーチャルクラスデジタルラーニングの取組みが紹介され、意見交流した。

分科会Fでは、「デジタル教材の著作権対応とChatGPTの対応」では、保護の対象となる著作物と公衆送信での対応、補償金分配の問題、生成系AIに関する著作権上の問題について説明が行われ、意見交流を通じて理解の共有が行われた。

分科会Gの「学びの質向上を目指すICT活用の取組」では、3大学からオンラインインターカレッジ討論会、地域連携教育、TBLが紹介され、意見交流した。

分科会Hの文系学生向けデータサイエンス、AI授業のワークショップでは、「他学部横断的なデータサイエンス授業の実践例と生成系AIとの向き合い方」が紹介された。

分科会Iの「メタバースによる大学授業活用事例の紹介」では、2大学から課題解決型PBLの試み、国際協働学修の実践報告が紹介され、意見交流した。

3. 3日目のICT利活用の発表

39件(当日発表中止1件)の教育改善を目的としたICT利活用の発表が行われた。

4. 参加者アンケート

(1) 全体会について

- ・ 国の方針と、生成系AIの大学における取扱いの全体像が聴けたので参考になった。
- ・ 生成AIの導入による教育現場での取組みと、これからの時代が求める人材育成のノウハウの実例を学ぶ機会となりました。
- ・ 授業での生成系AIの扱いについて、方針をきちんと示す必要があると感じた。「考える」へつなげる方法が大切だと実感する。

- ・ デジタル人材の育成・確保について、十分な情報が得られたため、非常に勉強になった。また、生成系 AI に関する教育も、早急に取り組む必要性を感じたため、来年度に向けて検討中である。
 - ・ DS と AI の今後について強烈なパワーと進化を強く予感しました。特に、VUCA の時代と言われる現在と今後本学が進むイバラの道を灯す希望が持てました。
- (2) 分科会について
- ・ 分科会 A の生成 AI に対する大学対応の 5 大学の実践内容が、大変興味深く拝聴しました。
 - ・ 分科会 B の企業における AI への対応事例を知ることができ、これらの事例を教育活動に展開したい。
 - ・ 分科会 C の ChatGPT を用いた様々な授業を知れて良かった。
 - ・ ChatGPT に関する具体的な手法をいくつか聞かせていただき参考になりました。
 - ・ 分科会 D でこれからの大学職員の業務がどのように変化していくのか、参考とさせていただける情報提供であった。
 - ・ 分科会 F のデジタル教材の著作権対応と ChatGPT の対応について、大変勉強になりました。特に、卒業後に社会人として生成系 AI の取り扱いについて、十分な知識を持たせておく必要性について痛感した。
 - ・ 分科会 G の ICT で「空き家活用」の可能性を探究する地域連携教育が参考になった。
 - ・ 分科会 H の文系学生向けデータサイエンスについて興味深いお話を伺うことができました。
 - ・ 分科会 I の仮想空間で個別対応することで質問者が増えた点は興味深かった。
- (3) 発表会について
- ・ 様々な事例に触れることができ、参考にできる事例もあり有意義であった。
 - ・ 各大学の取り組みが分かり、今後の方針を立てる上で役にたった。
 - ・ A-1 では生成 AI を用いて自己分析をするという活用法を知ることができました。
 - ・ 各教科、特に英語教育における教育改善&ICT 利活用は参考になりました。
 - ・ 各大学の AI・CHATGPT と共存していくためのアプローチ方法を知ることができた。
 - ・ A グループを中心に参加させて頂いたが、実践的な取り組みが多く、参考となるものが多かった。来年度も参加する予定なので、経年結果を楽しみにしている。
 - ・ 質問が少ないようで、もう少し意見交換を活発にするよう誘導していただいてもよかった。
- (4) 大学・企業による ICT 導入・活用事例紹介ビデオについて
- ・ もっといろいろな企業の情報提供があった方が良かった。
 - ・ 時間の関係で視聴できなかったため、オンデマンドで視聴できるよう動画を置いてほしい。
 - ・ 休憩時間は休憩で過ごしたい。午前の最後の時間帯 15 分を活用してどうか。
 - ・ 休憩時間に流すものとして節度もあり、良かったと思います。
 - ・ 音声のボリュームが小さかったものがあり、よく聞き取れなかった。事前にテストをしておいて欲しい。
- (5) 今後希望するテーマ、開催案内方法へのアドバイス、お気づきの点について
- ・ 優秀な学生の能力を引き延ばす取り組みについて聞いてみたい。
 - ・ 1 年後時点での「AI とウェルビーイング」についての実績や今後。どのくらい景色(展望)が変わって(進化)いるかに興味があります。
 - ・ 個別の授業の取組等参考になる点もあったのですが、大学全体が AI に対してどのように向き合っていくかなどの観点から、聞ける話がもう少し充実しているとよいなと思いました。
 - ・ 今回のテーマが私にとってとても関心があるテーマであったため、経過報告のような話をきければよいと思う。
 - ・ 次年度もオンライン開催を希望します。

なお、開催結果の詳細は、巻末の 2023 年度事業報告書の附属明細書【2-6】を参照されたい。